

■飼料用とうもろこし 除草剤

使用方 使用時 法期	薬剤名	毒性	使用方 使用時 法期	10a 当た り量	使用 回数
全面土壌散布 および 雑草茎葉散布	ゲザプリム フロアブル		は種後～ とうもろこし2～4葉期まで	100～200ml	1回
全面土壌散布	デュールゴールド		＜一年生イネ科雑草＞ 本葉1～2葉期(イネ科雑草2葉期まで)	70～100ml/10a	1回
全面土壌散布			＜一年生雑草＞ は種後発芽前(雑草発生前)	70～130ml/10a	
全面土壌散布 雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	ラッソー乳剤		は種後出芽前 生育期1～2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)	200～400ml	1回
雑草茎葉散布 または 全面散布	ハーモニー75DF水和剤		耕起7日前まで (雑草生育期)	2～4g	1回
			飼料用とうもろこし2～4葉期 (雑草生育期)	2g	1回
雑草茎葉散布 または 全面散布	バサグラン液剤		とうもろこしの生育期 (雑草の3～6葉期) 但し収穫50日前まで	100～150ml	1回
全面土壌散布	フィールドスターP 乳剤		は種後～とうもろこし2葉期 (イネ科雑草2葉期まで)	75～120ml	1回
雑草茎葉散布 または 全面散布	アルファード液剤		とうもろこし3～7葉期 (収穫45日前まで)	100～150ml	1回
雑草茎葉散布 または 全面散布	ブルーシアフロアブル		とうもろこし3～5葉期 但し、収穫45日前まで	40～50ml	1回
			とうもろこし6～7葉期 但し、収穫45日前まで	50～75ml	
雑草茎葉散布 または 全面散布	ワンホープ乳剤		とうもろこし3～5葉期 (収穫30日前まで)	100～150ml	1回
不耕起 雑草茎葉散布	ラウンドアップ マックスロード		飼料用とうもろこし 出芽前まで (雑草生育期)	200～400ml (水50ℓ)	2回 以内
不耕起 雑草茎葉散布	タッチダウンiQ		は種後出芽前 雑草生育期 (草丈30cm以下)	200～400ml (水50～100ℓ)	2回 以内

主な対象雑草										環境条件		処理後の 降雨	使用上の注意事項
シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ	一 年 生 イ ネ 科	土壌水分						
							湿	乾					
○	○	○	○※				○	▲	○			・砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 ・雑草の発生前から発生揃期に散布すると、最も効果が高い。 ・使用回数は全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 ※土壌処理ではツユクサに対する効果が劣る。	
						○	○	×	○			・砂土では使用しない。	
						○	○	×	○			・土壌が乾いていると効果が劣る。 ・粘土質の土壌では、所定の範囲内で多目の薬量を使用する。	
				○						×		・砂土では使用しない。 ・ギシギシ類に効果がある。茎葉処理剤のためギシギシ類の葉が展開してから行う。 ・有機リン系殺虫剤との混用および7日以内の近接散布は、薬害を生じる恐れがあるので避ける。 ・本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意する。	
○	○	○	○				▲	▲	×			・散布後、曇天、降雨日が長く続くとうもろこし効果が劣ることがあるので、晴天を見計らって散布する。 ・高温条件下では薬害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。	
						○	○	▲ ×	○			・処理後に著しい低温多湿が続く条件では、生育が抑制される場合がある。 ・砂土では使用しない。	
○	○	○			○	○				×		・散布時の展開葉に薬害(黄斑)を生じる場合があるが後の生育収量に影響ない。 ・ゲザプリムフロアブルとの同時処理で除草効果が上がる。 ・イヌホウズキ、イチビに対して効果がある(100mlではイチビに対する効果が劣る)。 ・散布直後の降雨は効果を低下させる	
○	○	○			○	○				×		・散布後、一時的にクロロシス症状を生じることがあるが、その後の生育、収量には影響しない。 ・雑草生育期に有効であるが、雑草が大きくなりすぎると効果が劣ることがあるため、時期を失しないように散布する。 ・散布後6時間以内の降雨は効果を低下させるので、天候に注意する。	
○	○	○	○			○	○	○	×			・散布数日後一時的に褪色及び生育抑制を生じることがある。 ・品種によって薬害が生じる恐れがあるので注意する。 ・本剤は、微量の成分で作物に影響を与えることがあるので、散布機械器具は家庭用洗剤等による十分な洗浄を行う。 ・有機リン系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は薬害を生じることがあるので避ける。 ・シバムギ、レッドトップに効果がある。	
○	○	○	○			○						・とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 ・専用ノズルを使用する。 ・泥炭土での使用は避ける。	
○	○	○	○			○						・とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 ・専用ノズルを使用する。 ・泥炭土での使用は避ける。	